

# チャペル週報

そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして  
神を愛し、また隣人を自分のように愛する』という  
ことは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも  
優れています。

(マルコによる福音書 12:33)



2007.12.10 ~ 12.14 No.22  
関西学院宗教センター

---

## チャペル・スケジュール

---

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

---

12月10日(月) 大学合同クリスマスチャペル 10:20 ~ 11:20  
西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂  
神戸三田キャンパス 理工学部チャペル

---

12月11日(火) 院 Andreas Rusterholz (宣教師)  
神 共に創る礼拝  
文 田 淵 結 (宗教主事)  
社 希望を持って Ruth M. Grubel (院長・宣教師)  
法 栗 林 輝 夫 (宗教主事)  
経 舟 木 讓 (宗教主事)  
商 山 口 隆 之 (商学部准教授)  
総 対話: Joseph DeChicchis(総合政策学部教授) 今泉信宏(宗教主事)

---

12月12日(水) 神 神学部クリスマス礼拝  
社 希望を持って 山 上 浩 嗣 (社会学部准教授)  
法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)  
経 クリスマス パイプオルガンミニコンサート  
高橋明子(関西学院チャペルオルガニスト)  
於:ランバス記念礼拝堂  
商 宗教総部  
理 「クリスマス賛歌」理工学部アンサンブル  
総 関 根 孝 道 (総合政策学部教授)

---

12月13日(木) 神 李 殷 相 (M2)  
文 音楽チャペル 聖歌隊  
法 栗 林 輝 夫 (宗教主事)  
経 English Chapel Manon Nikiema (Emmanuel Nikiema 文学部客員准教授夫人)  
商 English Chapel Richard Stinson (宣教師)  
総 鎌 田 康 男 (総合政策学部教授)

---

12月14日(金) 神 堀 野 浩 嗣 (M2)  
文 Andreas Rusterholz (宣教師)  
社 社会学部・経済学部合同クリスマス礼拝  
経 クリスマス パイプオルガンミニコンサート  
太宰まり(関西学院チャペルオルガニスト)  
於:ランバス記念礼拝堂  
理 「かいばおけ」松 木 真 一 (宗教主事)

---

ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20 ~ 8:40 於:ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)

12月14日(金) 人間福祉学部のために 芝野松次郎

総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40 ~ 於:宗教主事室

---

ランバスチャペルアワーのお知らせ

今年度最後の学生によるチャペル「ランバスチャペルアワー」を下記のとおり行います。

と き：12月17日（月）10:35～11:05

と ころ：ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原）

今の世界の「人権」を考えるフィルムセッション第6回（2007年度第3回）

テーマ：「障害者の自立生活」が問いかけるもの 「収容」に抗う闘いの記録

『こんちくしょう』（村上桂太郎監督作品）を観る

トーカー：福永年久（『こんちくしょう』制作総指揮）、村上桂太郎（『こんちくしょう』監督）、大橋裕子（関西学院大学キャンパス自立支援課）

ナビゲータ：阿部 潔（社会学部）

と き：12月19日（水）15:15～18:30

と ころ：図書館ホール

主 催：関西学院大学人権教育研究室（吉岡記念館企画）

概 要：「健常者」とは異なる存在とされる「障害者」は、支援や介護の対象とされることはあるが「自立」の主体とみなされることは、実のところかぎりなく少ないのではないだろうか。だが、長年にわたり「障害者の自立」の獲得を目指して運動／実践を繰り返してきた人々がいる。今から40年前、制度も何も存在しなかった時代に、世間から加えられる差別の眼差しや行政からの収容の圧力に抗いながら、生きる＝闘ってきたものたちの姿を通して、現代社会における「自立」について問いかける機会を持つ。

関西学院のクリスマス行事

12月10日（月）パロックアンサンブル クリスマスコンサート

18：40～ 西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

12月11日（火）関西学院聖歌隊キャンドルライトサービス

18：00～ 西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

12月12日（水）大阪梅田キャンパスクリスマス クリスマスの調べ

17：00～18：00 アプローチタワー 1F エントランスホール（梅田）

大阪梅田キャンパスクリスマス クリスマス礼拝

18：00～ アプローチタワー 14F 1405教室（梅田）

12月13日（木）関西学院クリスマス礼拝 - 音楽で祝う降誕

18：30～20：00 神戸三田キャンパス 号館201

ゴスペルクワイア クリスマスコンサート

18：30～19：30 西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

12月14日（金）関西学院クリスマス礼拝 - 音楽で祝う降誕 中央講堂

17：00～18：30 西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂～中央芝生

12月15日（土）クリスマスコンサート 平井誠・稲富友有子（ヴァイオリン）、瀬尾千絵（オルガン）

13：30～ 神戸三田キャンパス ランバス記念礼拝堂

12月18日（火）「メサイア」コンサート 関西学院聖歌隊

18：00～ 西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

12月20日（木）関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール

18：30～20：50 ザ・シンフォニーホール（大阪）〔有料〕

# 印象に残っているインタビュー

古 森 勲

・務

所で会った。その3カ月前、田中内閣の外相として中国との国交回復を実現、地元香川での大平人気は最高潮に達していた。トップ当選は確実だったが、自派候補の応援のため全国を駆け巡り、地元に戻るのが投票日直前。ボソッとこぼした言葉から「古里の温もり」に浸る少年のような「純な姿」を垣間見せたのだった。

高坂正義さん（京都大学教授、故人）

「困るのは公平・公正を主張する政党がなくなること。公平・公正と言っても現代社会を新しい目で捉えてもらわないかん。だから社会党にはいっぺん死んでもらわないかんのです」

首相になった社会党委員長が国会で自衛隊合憲などと党の基本政策に反した所信表明をしたため、社会党衰退が始まった。そんな社会党を保守本流の政治を知り尽くしている高坂さんがどう見ているか興味があって1995年、対談を企画した。「革新自治体と公害問題のころまでは存在意義があった」など社会党への「愛情表現」を交えながら冒頭の発言をした。社会党には失望していたが、社会党的なるものには再生を期待しているようだった。

鶴見俊輔さん（哲学者）

「アメリカの民主主義は岩床がしっかりしていると思っていたら、岩床の下にも底があり、民主主義の闘いが続けられていた。これがアメリカの創造力の源泉になっている」

1997年、憲法施行50年の特集で取材した。戦前、ハーバード大学へ留学中に日米開戦となり、最後の学年は敵国人として逮捕され留置場へ。そこで書いた論文を教授会で投票し卒業が決まった。「アメリカでは政府と大学が別の判断に立っている」ことを知って民主主義の岩床はしっかりしていると思った。しかし、奴隷解放後に黒人にも選挙権が与えられたが、投票できないことが普通にあり、民主主義の闘いが続いていたことを知ったという。

◇

◇

◇

それぞれの語録の趣旨を、大平さんは「初心を忘れるな」、高坂さんは「反対の中に真実があること」、鶴見さんは「民主主義の闘いは創造力の源」とそれぞれ理解している。いずれも含蓄ある内容だったのでまとめるのに苦闘したことを覚えている。

（広報室長）